



刈り遅れによる品質低下を防ぎましょう！

1 生育状況

現在、黄葉期～落葉期。生育は平年並～やや不良。6月～7月の断続的な降雨の影響により、播種が遅れた圃場では草丈が低く(50cm程度)、葉の展開も悪く雑草が多発生している。病虫害の発生程度は、平年並～やや少(べと病、葉焼病、カメムシ類、マメシクイガなど)

2 今後の天気

関東甲信地方1か月予報(令和3年10月28日気象庁発表)では、気温は平年並・平年より高くなる確率はそれぞれ40%、降水量は平年より多くなる確率40%です。10月30日以降は晴れの日が少ない予報のため、下記のとおり大豆の莢や子実の状態をよく見て、収穫適期を逃さないようにしましょう。

3 適切な収穫

収量と品質を向上させるには、適期を逃さず収穫することが重要です。

収穫時期の目安： 茎や莢が変色し、軽く振るとカラカラ音を立てる時期(茎水分40%以下、子実水分18%以下)

- ◇ 収穫が早すぎると……茎汁等による汚粒や破碎粒が発生しやすい。
- ◇ 遅れると……自然裂莢による収穫ロスや割粒が増える。



収穫の注意点



収穫適期より早い → 茎汁等による汚粒や破碎粒が発生しやすい

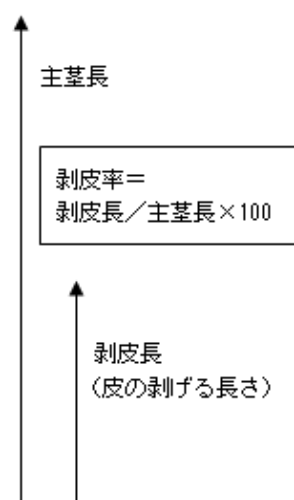
収穫適期より遅い → 亀甲じわが生じやすくなる

上記の目安を参考に、適期収穫を心がけましょう。また、汚粒発生やコンバインの故障を防ぐため、収穫前に青立ち株や雑草をできるだけ除去しましょう。

<参考>

茎水分の目安
70%: 緑色が残る
60%: 莢と同じ褐色
40%: ほとんどの茎が黒変開始し、 <u>剥皮率が30%程度</u> 手で折ると軽くボキと折れる

子実水分の目安
20%: 噛むと音がせずに割れる
18%: 爪を立てると少し跡が残る
15%: 噛むとパリッと割れる。



4 適切な乾燥・調整

◇循環型乾燥機の場合・・・皮切れ、破碎粒が発生しやすいので以下の点に注意

- ・ 機械的損傷を防ぐため、循環搬送の速度を下げる。
- ・ 穀温が 25℃以下で推移するように、通風温度は 30℃以下とする。
- ・ 循環の回数をできる限り少なくし、仕上げ水分が過度に乾燥しないようにする。
- ・ 高水分(18%以上)の大豆を乾燥させる場合、加温せずに通風乾燥を行い、急激な乾燥によるしわ、皮切れを防ぐ。

◇静置型乾燥機の場合

- ・ 通風または 30℃以下の温度で乾燥させ、むらを防ぐため時々攪拌する。
- ・ 急激な乾燥はしわ、皮切れの発生要因になるので注意する。

<選別のポイント>

- ・ 粗大な夾雑物を含む場合は、ふるい等で除去する。
- ・ 大豆選別機・選粒機を用いて被害粒や割粒等を除去し、大粒・中粒・小粒に選別する。特にべと病に罹病した粒は中粒以下になる割合が多いので調整は丁寧に行う。
- ・ 着色粒や腐敗粒、フタスジヒメハムシによる黒斑粒は特に注意して選別する。
- ・ しわ粒が多かったり、過乾燥の状態では選別調整すると機械的衝撃による剥皮粒が発生しやすいので注意する。

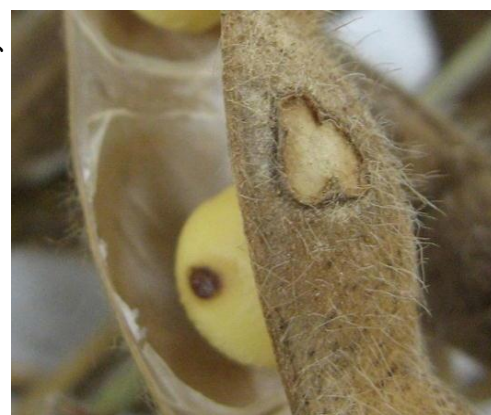


写真 フタスジヒメハムシによる莢の食害痕と黒斑粒